

まちづくり推進組織の会議記録

会議の名称	第10回（平成18年度第4回）かごしままちづくり会議
開催日時	平成18年12月25日（月）14：00～15：55
開催場所	かごしま市民福祉プラザ5階中会議室
出席者 （委員） （市職員）	委員14名、市職員9名 宮廻会長、西園委員、時村委員、今別府委員、四元委員、槐島委員、岩元委員、岡本委員、武委員、永山委員、奈良迫委員、西委員、前田委員、山本委員 新地企画部長、宇治野企画部参事、中園企画調整課主幹、川元健康福祉総務課長、幾留教育委員会事務局総務課長、木場青少年課長、小川介護保険課庶務係長、その他関係職員
傍聴者数	0名
事務局	鹿児島市企画部企画調整課
会次第	1 開会 2 報告 （1）第9回（平成18年度第3回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について （2）第9回（平成18年度第3回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） （3）第10回（平成18年度第4回）地域まちづくり会議等について 3 協議 （1）テーマ協議 （主）福祉・教育 （副）コミュニティ （2）その他協議 4 その他 5 閉会
会議の概要	1 開会 2 報告 （1）第9回（平成18年度第3回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について ○ 事務局から、第9回（平成18年度第3回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について説明。 （2）第9回（平成18年度第3回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） ○ 事務局から、第9回（平成18年度第3回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況のうち全市的な事項9項目について報告。 （3）第10回（平成18年度第4回）地域まちづくり会議等について ○ 事務局から、第10回（平成18年度第4回）地域まちづくり会議等の概要について報告。

3 協議

(1) テーマ協議

- 事務局から、テーマ「福祉」「教育」に関して、「かごしま市の保健と福祉」「地域包括支援センター」「鹿児島市の教育」についての説明あり。
- 委員から、近年の生涯学習においては、福祉教育の部分が重視され確立され始めているが、昨今の人間関係の希薄化を鑑み、地域住民との助け合いを重視した福祉教育にもっと力を入れてコミュニティを形成していくことが重要だ。福祉についてはサービスで受けるものだと考える人がいるが、何らかの方策を講じて、地域皆で支え合い産み出していくものだという意識へと改革し、子供たちに助け合いや奉仕の精神を教えていく事が必要だとの発言あり。
- 委員から、桜島地域や山間部など、かなりの勾配を伴う地域に居住する高齢者に配慮して、虚弱高齢者が社会参加しやすい環境にし、日常生活の自立を支援する観点から、購入費が高額な電動車椅子に対する補助制度について検討してほしいとの発言あり。
- 委員から、地域包括支援センターや校区公民館などの施設が多くできる事はいいが、それぞれが分断されている感があるので、校区公民館などにあいご会や町内会、警察、福祉関係等も全て含めたトータル的に機能する組織を設けて、教育・福祉両面におけるの利便性を高めてほしいとの発言あり。
- 委員から、みんなでまちを美しくする条例で定められた路上禁煙地区の範囲を全市的に広げるなどして、更なる禁煙強化を検討してほしいとの発言あり。
- 委員から、交通設備面でのバリアフリーがまだまだ遅れていると思うので、中央駅以外の駅へエレベーターを設置するなどして、車椅子の方などが利用しやすいような施策を工夫して行ってほしいとの発言あり。
- 委員から、少子化と矛盾するような保育園の待機児童の多さも問題だと思う。また福祉に対する意識や郷土への愛着心を急に身に付ける事は難しいので、小学生の頃から教育内容に盛り込むなどして、鹿児島らしい教育というものを行う必要があるとの発言あり。
- 委員から、地域住民が行政だけに頼らず、自分たちができる事は何かを考えて地域の問題に取り組んでいく必要があると思うので、旧5町にある地域まちづくり会議のような組織が旧鹿児島市内の各地域に設けられてもいいのではとの発言あり。
- 委員から、教育における問題点は少子化にあるが、生徒数の減少だけでなく、都会へ出て教育を受けた後に戻らない子供の多さにも問題があるので、流出に歯止めをかける対策の一つとして、文化度を高めて魅力的なまちづくりを行う事が大切だ。また、生徒数の減少に伴い無駄になった土地については、その学校にまつわる何らかの遺産・偉人に関する資料を公開するなどして活用すれば、生涯学習にもつながり、学校は子供だけのものではなく大人も学べる場であるという意識が高まるとの発言あり。
- 委員から、児童数が減り廃校の可能性もある小規模校が山間僻地などに増えてきているが、地域コミュニティという点で小学校は地域の中心であるので、小規模校を維持させるための対策をもう少し検討してほしい。郡山地域では、小規模校と大規模校とをフレンドリースクールという姉妹都市のようなもの

で結んで交流するという方法も提案されたので検討してほしいとの発言あり。

- 委員から、資料の検討状況一覧を見ると、高齢者向けとか要望に沿いがたいなどと回答されている事例が多いが、学校という場で施策を有効に活用させるためには、そういう垣根を越えて柔軟な対応を行う事が求められ、それが地域活性化にもつながると思う。小学校は地域の中でも大きな意味を持つので、もっと活用されていい場所だとの発言あり。
- 委員から、コミュニティと学びとは全くの別分野ではなく、これから条例化される校区公民館は、校区・地域の中で果たすべき役割、位置づけや今後のあり方を十分考慮してほしいとの発言あり。
- 委員から、玉龍中高一貫教育校が設置されたが、その入試体制については、小学生のうちから塾と家庭での勉強の両立を加速させているのではないかという懸念もあるので、能力的なものだけでは判別しない形での実施を考えてほしいとの発言あり。
- 委員から、品川区などが行っている小中一貫教育について、鹿児島市でもモデル校を設置するような形での構想はないか。また、特に小学校低学年に対しては少人数教育を徹底させ、きめ細かな教育・指導が必要だとの発言あり。
- 委員から、学校が地域の核となり、生涯学習の場であり色々な面の人を育てる核であるとしても、非常に多忙な先生に授業以外の事まで教えさせる体制には無理があると感じるので、校区公民館が地域の核になるのであれば、教える面は先生ではなく地域が担うなどの枠組の考え直しが必要だとの発言あり。
- 委員から、旧5町で合併後も継続して年1回開催されている地域運動会について、健康づくりだけでなく、親睦と絆を深め地域の活力を維持する面でその意義は大きいので、現在市が行っている開催に対する負担金措置については将来にわたって継続してほしいとの発言あり。

(2) その他協議

- 会長から、昨年度は意見・提言をまとめた協議経過報告書を作成して市長に提出したが、今年度もそのような形で整理を行うかどうかとの発言あり。
- 事務局から、地域まちづくり会議と同様にこれまでの議論の経過を踏まえ、一定の整理を行うこととし、2月末に開催予定の次回会議での議題に「本年度の意見集約について」を加え、ご協議いただきたいとの発言あり。
- 委員から、今は合併後のスムーズな一体化のためにまちづくり会議があるが、今後は新生鹿児島市全体を視野に入れ、自分たちのまちのあり方を皆で考えあう機会として、旧鹿児島市内にも支所単位、地域公民館レベル単位でのまちづくり会議の設置を検討してほしいとの発言あり。
- 会長から、旧市域でのまちづくり会議設置については、長期的な観点で検討していただくとし、この会議としては昨年度と同様の形で今年度の意見を集約し、地域まちづくり会議のまとめと併せて年度末に市長に提出するとし、次回会議では「本年度の意見集約について」を議題に加え、まとめにあたっては事務局や正副会長等で原案を作成し、協議を行う取扱いとすることを確認。

4 その他：意見なし

5 閉 会

=以上=

